

明治三十三年

(二月)

一月一日 甲戌 月曜 四方拝。晴、午下細雨已而晴。

朝起て、神前祭祀して四方拝。七時、家内一統、生徒も同様、食堂にて雑煎を祝ふ。畢て氷川神社ニ参詣する。帰宅して賀客を受く。

*雑煎(雑煮)

一月二日 乙亥 火曜 晴。

この朝も同しく雑煎を祝ふ。余、昼餐早々北白川宮様え年札ニ参り、閑院宮様、三条家、小松宮様、岩倉家二行、日暮帰。

受方摘要 三条家、六円五十銭。

*雑煎(雑煮)

一月三日 丙子 水曜 晴。

余、桃子と同しく、新橋十一時廿五分汽車にて、横浜三の谷二行。新橋迄小池清待居りて同道す。三の谷座敷新築漸出来、下壁ハぬれ色ながら飾付も出来、実に美尽されたるもの也。一宿。

受方摘要 汽車代、二円。

払方摘要 原氏女中え五円。

一月四日 丁丑 木曜 晴。

原氏にて遊ぶ。一宿。

一月五日 戊寅 金曜 入寒。晴。

原氏にて早昼にて、一時の汽車にて帰る。

(二月六日、記載ナシ)

一月七日 庚辰 日曜

朝起て見れば、雪五寸計積りて一様の銀世界也。余、愛治郎、弘と同しく、観世会二行、四時帰。

払方摘要 観世場代、拾四円。同氏え祝義、千疋。

*祝義(祝儀)

一月八日 辛巳 月曜 晴。

開校及新年会執行す。午後一時よりの案内、午前より続々来る。来会者百三十人計也。一同え茶菓を呈す。松上鶴二寄て、鶴の子の菓子を紅白にこしらへ、松の枝を添る。福引は各々持参ものにて、**帰りて**珍らし。五時全畢。夕景より内の新年会にて、賑々敷盛会也。受方摘要 池田加代、三円。(氏名欠)、五十円。

*こしらへ(拵へ) *帰りて(却りて)

一月九日 壬午 火曜 晴。寒気堪かたし、近来珍らし。

授業始をなす。入塾、小倉高。

一月十日 癸未 水曜 雪。

授業例の如し。入塾、松島知恵、中野富。朝より雪にて、夜半より又雨ニ降出し、夜たゝ不止。

さらてたに涙のかゝる袖の上に雪と雨とのふりそゞく夜や

英祥皇太后を思ひまつりて。

払方摘要 預ヶ金、二百円。

*英祥皇太后(英照皇太后)

一月十一日 甲申 木曜 雨。

授業例の如し。弔詞を出す、目黒徳松。同、降旗元太郎。大和田氏稽古始をなす。

一月十二日 乙酉 金曜

授業例の如し。書を寄す、斎藤仁子、岩倉梭子。余、此夜中より風邪に冒され臥。

一月十三日 丙戌 土曜 三条家より招待、芝紅葉館午後四時。

微恙にて臥。三条様えも御断を**まをす**。

*まをす(申す)

一月十四日 丁亥 日曜

同しく臥。岩倉氏より紅葉館能楽も相断候。来客、続々来。

一月十五日 戊子 月曜

同しく臥。

(一月十六日〜十九日、記載ナシ)

一月二十日 癸巳 土曜 晴。雪。
同じく臥。故千久子配物す。檜木の箱、腰高饅頭ヂヤウヨウ[図]を入れ、絹さなた紐付、金三円也。

*ヂヤウヨウ(薯蕷) *絹さなた(絹真田)

一月二十一日 甲午 日曜
始て起。床払す。昨夜雪五寸も積む。来客、長谷川静江。

一月二十二日 乙未 月曜 晴。

学校休業にあらず、余等課業のみ欠席す。午後一時の案内にて、続々来客ある。祭典執行して、皆々墓参する。雪にて道路あしく、余ハ不参する。重威病氣にて治、幾のみ来る。三時過より晚餐を饗応して、夜二入、夫々帰宅す。菊、駒一泊する。先々賑々敷、三年祭も相済たり。

*あしく(悪しく)

一月二十三日 丙申 火曜
余、此日より出席する。

(一月二十四日～二十六日、記載ナシ)

一月二十七日 庚子 土曜 三十四度、実に絶かねたる也。
課業例の如し。京都吉田内侍さまより湯葉着す。書も至る。

*絶かねたる(堪かねたる)

一月二十八日 辛丑 日曜 朝ハ曇りたれと後晴る。四十度ニ上る、や々暖気を覚ゆる。桃子、関氏の母堂一周忌ニ付、参詣す。来客、久米氏、子供三人を連れて来る。子供等大に成長して、皆々学校へ出るよし、清書など持来る。大悦ニて夫に付ても涙のみ。久米氏も共に涙にむせふ。昼飯出して、三時頃帰る。

一月二十九日 壬寅 月曜 晴。雪の所為か五十度ニ上る、寒気もゆるみ有かたき極み也。今朝二時頃よりの雪なから、積事五、六寸、深雪といふへし。課業例の如し。書をよす、毛利万子、小早川式子、三条治子、吉田滝子。

一月三十日 癸卯 火曜 孝明天皇祭。晴。
午下早々戸田氏年始に行。承り候へは、丹羽氏御母堂死去にて今日葬送のよし也。田村氏

を訪ふ。子供等はしかにて大／＼困りのよし也。しかし謡及仕舞等も舞て帰る。帰途、順天堂二万里小路を訪て閑談する。怪我も大／＼よろしきよし也。夕景帰る。
*はしか(麻疹)

一月三十一日 甲辰 水曜 晴。

課業例の如し。書至、毛利万子、三田尻美佐子様にも女子御**妨婉**にて御肥立よろしきよし也、十九日午前二時。
受方摘要 会計より五円。

***妨婉**(分婉)

一月会計

払方摘要 金三拾九円廿七銭五厘。

(二月)

二月一日 乙巳 木曜

受方摘要 津久井氏潤筆、五円。

(二月二日～四日、記載ナシ)

二月五日 己酉 月曜 晴。寒し。

終日臥。御所御内儀より御訃音。楓内侍様、本月一日御参内にて、午後一時頃腹痛にて自宅へ御下りて、一時ハ熱度も高くて人事不省之様子之処、注射にて御戻りに相成、気分も大みによろしきと申され候処、午後に至り段々様子**あしく**、終ニ四時過に逝去致され候様子也。年七十六歳。来客、大分中山安子。入塾、太田房。

受方摘要 太田房、三円。

***あしく**(悪しく)

(二月六日、七日、記載ナシ)

二月八日 壬子 木曜

田中嘉代死去。

(二月九日〜十三日、記載ナシ)

二月十四日 戊午 水曜 晴。

課業畢。午下三時より、余、桃子、栄子、静、森政を拉して、馬車二輛にて閑院宮様え詣す。殿下欧州御謾遊ニ付、御送別会也。御客、小松宮大宮御両所、若宮御二所、北白川富君様、岩倉御夫婦、其外御別当御用掛衆也。わか生徒、席画之御用也。種々御余興も有て御賑々敷事也。十一時帰。余、微恙ありて、此日始而外出す。

*謾遊(漫遊) *わか(我が)

(二月十五日、記載ナシ)

二月十六日 庚申 金曜 晴。風甚。

閑院宮様御出発。余ハ微恙ありて、愛治郎、横浜迄御見立申上る。

(二月十七日〜二十五日、記載ナシ)

二月二十六日 庚午 月曜 晴。

課業例の如し。夜十時、跡見玉枝より使来。千賀義今日午後四時死去すとのしらせにて、直に愛治郎出向る。已而帰。

*義(儀)

二月二十七日 辛未 火曜 晴。

朝、玉枝方え悔ニ行、已而帰。

弘方摘要 玉枝方え千疋。

二月二十八日 壬申 水曜 晴。風甚。

跡見千賀女葬式執行。愛治郎会葬す。

受方摘要 会計より五円。

二月会計

弘方摘要 金五円三十銭也。

(三月)

三月一日 癸酉 木曜 晴。
靖子初節句ニ付、方々より雛人形など祝ひ贈らる。

三月二日 甲戌 金曜 朝より雨、午下晴。
(コノ日、生地ナシ)

三月三日 乙亥 土曜 晴。
課業畢る。靖子初節句ニ付、雛祭執行す。来客、重威、幾子、石山基遂、須磨子、駒、賑々敷事也。井深氏も初節句ニ付、皆々招に応ず。須磨子、駒女一宿。

三月四日 丙子 日曜 晴。
觀世会なから多忙ニ付不参して、須磨子、駒女同会ニ行。

(三月五日、六日、記載ナシ)

三月七日 己卯 水曜 晴。
課業畢る。午下岩倉氏ニ稽古して帰、中条氏ニ行、また閑院宮様え参り、御息所様と暫時御咄し申上て帰。

(三月八日、記載ナシ)

三月九日 辛巳 金曜 晴。
課業畢る。午下閑院宮様え参り、御息所に御稽古上て帰。

三月十日 壬午 土曜 晴。
課業畢る。午下小松宮ニ詣し、両殿下及若君にも拝謁、暫時御咄し申上て帰。

三月十一日 癸未 日曜 晴、夕景雪ちら／＼、已而晴。風寒し。
午下来客、毛利万子、小早川式子。入塾、加藤民子。

三月十二日 甲申 月曜 晴。風甚。地震。
朝六時、散歩して帰。課業如例。午下、御所藤袴内侍様御局え参り、久々にてゆる／＼御咄し共申上承りて、種々御料理等いたゞき、四時退出す。御奥ヨリ御菓子拝領す。

三月十三日 乙酉 火曜 晴。
課業例の如し。

三月十四日 丙戌 水曜 雨。

課業例の如し。戸田氏、岩倉氏、稽古日を断る、試験多忙ニテ。此朝ヨリ塩原松子病氣にて、熱度**四十度五部**ニ上る。親元へ電話にてしらす。午下四時頃人來りて日本橋親戚え連て行。心配ひと方ならず候。

*四十度五部(四十度五分)

三月十五日 丁亥 木曜 曇。

朝墓參して帰、父の祭典を行ふ。課業例の如し。

三月十六日 戊子 金曜 晴。

課業畢。一昨十四日、岩崎久弥祖母美和子死去ニ付、香儀金千疋ヲ**備える**。横浜長谷川氏二男死去、電話にてしらせある。角田千恵子え祝物を贈ル。猪太郎え博多帯ヲ祝ふ。來客、河鱈実文。

*備える(供える)

三月十七日 己丑 土曜 陰。

課業畢。午下早々土方家ニ弔詞ヲ伸ブ。龜子夫人、一昨十五日逝去。柩料千疋**備る**。田村氏ニ行、増子三周年忌ニ付、御花料金五円を贈る。暫時咄して帰。來客、角田栄子、永田千佐恵。

払方摘要 田村氏え五円。

*備る(供る)

三月十八日 庚寅 日曜 彼岸ノ入。雨。

來客、広田たけ。午下一時より、此度校友会ニ付賛助員を招き、万端**協議**す。毛利万子、小早川式子、大村梅子、松平鞆子、志賀鉄千代、**美の部**姑子、中村敬子、齋藤仁子、山内節、山崎節、斯波滋子、齋藤松の、千家信、小西庸、鷺田菊枝來り、其外不參も有。同会之日限ハ四月十五日と決定す。食事を出す。皆々五時過歸らる。長谷川一彦氏二男死去ニ付、弔詞を出す。書を寄す、塩原松子。

*協議(協議) *美の部姑子(美濃部姑子)

三月十九日 辛卯 月曜 晴。

画の卒業生のみ教授す。

三月二十日 壬辰 火曜 晴。三十七度。

課業例の如し。朝より志賀鉄千代來る。土方龜子葬送ニ付、愛治郎会葬ス。余、桃子と植

物園の梅花を観る。七、八分にて尤よし。寒さに堪かねて帰る。

*尤よし(最よし)

三月二十一日 癸巳 水曜 晴朗、午下三時頃より雨、夜二入大雨。
春季皇霊祭。先祖祭執行す。来客、斎藤仁子、片岡君子。塾生一同え寿もしを饗す。

三月二十二日 甲午 木曜 雨。

画の試験ニかゝる。

弘方摘要 大和田氏、三円。

三月二十三日 乙未 金曜 晴、天春の如し、かゝる氣候ハ当年の第一也。
卒業生徒之画を観る。来客、永田政代之父。生徒試験全畢。多忙ニ付、閑院様御断申上る。
此日、外の学科試験畢。

三月二十四日 丙申 土曜 曇。
休業。塾生帰省す。

三月二十五日 丁酉 日曜

卒業生、画の揮毫を観。

三月二十六日 戊戌 月曜 晴。
終日生徒の画を観る。

三月二十七日 己亥 火曜 晴。

朝より松平鱗子、三条夏子、画の揮毫に入らせられる。来客、小西春、長谷川千代、重威、
仁科駒、中野五八、中瀬福、池田いく、其娘。

三月二十八日 庚子 水曜 晴、午後より俄然雨又雹降而、已而晴。寒甚。

余、朝飯後突然腹痛にて大ニ困しむ。愛治郎、正子、桃子ハ、今井猪太郎氏、角田千枝
と結婚ニ付、媒酌人たるにて、不ニ見楼に行。新婚旅行致さる。三時帰。病氣ニ付、岩倉、
戸田氏を断る。

*困しむ(苦しむ) *不ニ見楼(富士見楼)

三月二十九日 辛丑 木曜 晴、たまり水こぼる。夕景雨。四十五度、至而寒し、風吹。
終日臥。

*こぼる(氷る)

三月三十日 壬寅 金曜 晴。たまり水氷る。四十三度、寒甚。
微恙ながら卒業証書揮毫す。弘、石神井高橋より俊吉迎ひに来る。依而高橋え趣く。来客、
岩佐亀、長谷川千賀。書を寄す、京都近万。来客、夜、玉枝、三治郎。
*趣く(赴く)

三月三十一日 癸卯 土曜 晴。
早起。掃除。揮毫にかゝる。

(三月会計、記載ナシ)

(四月)

四月一日 甲辰 日曜 晴。

卒業式場を園内ニ設く。午下二時ヨリ授与式執行す。生徒一同正服袴ニテ着座す。始め君
か代を唱歌す。第一、卒業生ニ授与ス。同生三十二人。第二、優等賞、第三、進級証、畢
而校長訓辞、同答千家信子。畢而奥庭ニテ一同撮影す。中黒氏。畢而一同ニ寿もし、さく
ら餅を饗す。当日、外より八手伝人等もなさす、依而すへて齊はす。
午下一時頃より雨降出して、暫時見合せる内、空晴て先々無難ニ万端済。

四月二日 乙巳 月曜 晴。

終日なすなくして遊ぶ。

*なすなくして(為無くして)

四月三日 丙午 火曜 晴。

朝より法帖揮毫す。

四月四日 丁未 水曜 晴。

本日より開校。新入生数、(コノ文、以下記述ナシ)。来客、福田芳子、柴田知賀、其外生
徒之父母。午下、戸田氏ニ教授して帰。入塾、五木田久、角野初。
受方摘要 三条末子、一円五十銭。

四月五日 戊申 木曜 晴。

課業如例。来客、斎藤仁子、石山すま子、俵松子、平田定子父、別府徳。退校、平田貞、
別府静。

(四月六日〜七日、記載ナシ)

四月八日 辛亥 日曜

閑院宮様より紋羽二重一疋。山内節子、七子一反。

四月九日 壬子 月曜 雨。

課業例の如し。余、六十一年の誕生日ニ付、其祝のしるしとて、三時業畢而より講堂の楼上ニテ御花見を催す。生徒一同、君か代、校哥をうたふ。畢而赤飯、御にしめを饗す。園中の花満開、実に雪の如し。一同楼を下りて、園中隊をなして唱哥す。此夕、石山基遂、基明も来りて、家門一同宴を張る。万歳を祝して、八時済。

四月十日 癸丑 火曜 雨。

課業例の如し。来客、星野花御悴、吉田庸、斎藤仁子、美の部姑。

吉田氏より羽織裏地。

受方摘要 斎藤氏、十円。

*美の部姑 (美濃部姑)

四月十一日 甲寅 水曜 朝雨、午下雨止、曇天。寒気甚し。

課業例の如し。午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して、閑院宮様え詣し、時丁度、華頂宮常君様御客ニテ、松平鞆子も御参りにて、御花見の御相伴致して、毎年ながらも御西殿の眺望ハ実に東京第一の風色にて、恋々やむなくなかめ尽して、御庭散歩して後、御食事及御飯等もいたゞき、夜八時帰。来客、岩浪稻子、瀬川久可子。

*なかめ (眺め)

(四月十二日〜十四日、記載ナシ)

四月十五日 戊午 日曜 天も朝ハ曇りにて、午下追々とはれ渡り、心地よき事也。

第一会校友会日ニ付、芝紅葉館ニ設く。第一隊九時之車ニテ、第二、十時、第三、十時三十分、第四、十一時と、第四隊としてくり出す。追々集り来る。午下一時二時之中也。珍らしき旧生徒等二面語して、楽しさの限りなり。余興、あやつり三番叟。くるわの網笠、国の基の三番、畢而食事。此時、桃子開会の挨拶をのへる。会する者二百五十人余也。食事ハ二階ニテ、余興ハ下座敷也。先々賑々敷開会も相済、六時全畢。帰宅、点灯頃也。帰車も前の如く第四隊にして、困雑もなく都合よく相済。

*はれ渡り (晴れ渡り) *第一会 (第一回) *あやつり (操り) *困雑 (混雑)

四月十六日 己未 月曜
休業す。

(四月十七日、記載ナシ)

四月十八日 辛酉 水曜 晴。
課業畢る。午下早々戸田氏ニ教授して、帰途田村氏を訪ふ。此時、佐藤夫人来て、熊野謡ふ。五時帰。

(四月十九日、記載ナシ)

四月二十日 癸亥 金曜 晴。朝あつく、単にてもとおもふ様なるに、二時頃より寒さつよく、不順也。
課業畢る。午下早々岩倉氏ニ教授して、帰途兩陛下に拝し奉る。観桜会在らせられ、芝離宮行幸也。来客、山田与十郎、娘いさをと。

*おもふ(思ふ)

四月二十一日 甲子 土曜
課業例の如し。来客、(以下、記述ナシ)

四月二十二日 乙丑 日曜 昨夜より大雨、朝も豪雨、十二時頃より雨止。
朝より大雨にて、昼時分より雨止。約あり、余、愛治郎と同しく、田畑村田村別荘ニ行、囃子会。人々打揃、囃子はしまり有。終日面白き事也。田村氏、半能田村をなす。畢而食事、九時頃帰。来客、松野とね子、酒井時子。

受方摘要 松野とね、十円。

*田畑村(田端村)

四月二十三日 丙寅 月曜 晴。天寒し。
課業例の如し。午下早々約あり、福田氏ニ行。素謡会ニテ来会者、

とをる 田村利久仁 百万 田村長子

松 風 佐藤夫人 熊野 余

葵 上 佐藤進 地謡 観鉄、梅万、芝原、渡辺了齋等也。

畢而食事中、独吟、仕舞。九時後帰。美濃山田いさを寄宿す。

*とをる(融)

四月二十四日 丁卯 火曜 曇、小雨、夜ニ入て豪雨。天寒し。

課業例の如し。閑院宮様え還暦の祝として、鶴の子かちん、松魚二円を献上す。

四月二十五日 戊辰 水曜 朝より雨降つゝく。
来客、島田信子。

四月二十六日 己巳 木曜 雨。

天皇陛下、海軍大演習御親閲二付、神戸に行幸在らせられる。皇室婚嫁令発表。

四月二十七日 庚午 金曜 雨、已而止。

訃音、広田千代昨廿六日午前四時死去。同、小松宮老女閑浦廿五日死去。午下、閑院宮様ニ詣し、御教授申上去。来客、小室氏。酋子外二人共帰塾。退校、酋子御礼二来而一宿す。東宮殿御慶事愈十日御治定。

小室氏より白縮緬一反。

弘方摘要 大和田氏、三円。

四月二十八日 辛未 土曜 天始而晴。

朝散歩して帰。広田氏悔二行、已而帰。午下撮影す、中黒にて。広田氏え香資、千疋。閑浦え同、二円。

四月二十九日 壬申 日曜 晴。

朝八時後より梅若能二行、終日面白く快を覚ゆ。三輪、船橋、桜川、葵上、弦上。実、素謡俊寛。日暮帰。退塾、有吉静、同里子。

弘方摘要 梅若え三円。

四月三十日 癸酉 月曜 晴。

退塾、三条夏子、右ニ付御礼入らせられる。本月入塾者、入校者とも五十八名也。日々新入生を断るとも、実に気の毒の至也。
受方摘要 三条夏子、十五円。

(四月会計、記載ナシ)

(五月)

五月一日 甲戌 火曜 晴。始袷着す。

課業畢る。戸田氏、岩倉氏ニ教授して帰、直佐野氏二行。千賀子縁談治定二付、御祝物持

参する。松魚一箱、紋御召一反。種々拵物を観る。皆々蒔絵物にて古しへの大名の様也。驚入る。祝酒、夕飯を饗せられ而八時帰。此日より奥一統わが八畳ニ来りて臥。来客、斯波滋子母、滋子先月廿日縁ニ付、其御礼ニ来る。松野利根子、久米氏縁に付、その祝として松魚一箱、紋羽二重一反。斯波氏より白綾織一反。

五月二日 乙亥 水曜 陰、夜ニ入て大雨。
(コノ日、記事ナシ)

五月三日 丙子 木曜 雨、昨夜より朝ニかけて大雨、午時より晴。
来客、斎藤仁子、服部氏。天皇陛下御還行。

受方摘要 毎日新聞社、五円。
*御還行(御還幸)

五月四日 丁丑 金曜 晴。

昨夜ヨリ大雨、盆を復す。朝より大晴。塾生より、六十一きれを以て長臈伴を拵え、又百五十三切を以て大しとねとを祝として贈らる。実に美事也。鷺田氏、松女之荷胆也。京都宮原六之介氏之母の三週忌ニ付備物する。

*復す(覆す) *六十一きれ(六十一切) *長臈伴(長襦袢) *荷胆(荷担) *
三週忌(三周忌) *備物(供物)

(五月五日〜七日、記載ナシ)

五月八日 辛巳 火曜 晴。

課業例の如し。午下、戸田氏ニ教授して岩倉氏ニ行、教授済て謡会を行せられる。田村長子、富安妻、松本長、大倉、森田も来る。謡、或囃子、仕舞にて、夜九時比帰。来客、福田好子。

五月九日 壬午 水曜 晴。

課業例の如し。三時、業畢而塾生等各家に帰る。市中形況盛也。午下、米倉氏ニ祝物白綾織、松魚を贈る。暫時、妻君と種々咄して帰。

五月十日 癸未 木曜 晴。晴天風なし、第一の好都合也。

早起。予、桃子と同しく、五時出門にて九条邸ニ行、節子御息所様ニ拝謁、御十二重の御装束御サジを御附させられ、種々御拵の御模様伺て御目のあたりにて拝見致し、実には有かたき事也。七時三十分、九条様ヨリ御新調御召馬車ニ召れ、実ニ御盛なる御事也。十時

より九条様御一同、御親戚の方々と青山御産所え参り、御慶事ニ付、献納品凍列物種々拝見する。御昼前、東宮殿下、御息所と御同車御行列を御産所御門前にて拝観す。君か代の声天地ニひゞきわたりて、いかにも御盛装也。余ハ是より万里家ニ行、昼飯ニ預り、又桃子等と桜田司法省前にて、東宮殿御両所様の御行列拝観して帰。
*十二一重(十二単) *凍列物(陳列物)

五月十一日 甲申 金曜 晴。
休業。午下、閑院宮ニ詣し、御教授申上て帰り、万里氏ニ寄、暫時ニして帰。

五月十二日 乙酉 土曜 晴。
引続休業。終日揮毫する。来客、吉田伝左衛門来。死去、牛込金蔵妻。

五月十三日 丙戌 日曜 雨。
朝七時より能楽堂ニ行、終日歎尽、四時帰。来客、藤山枝子母。服部氏雑誌ニかゝる。

五月十四日 丁亥 月曜 晴。寒。
課業例の如し。

五月十五日 戊子 火曜 晴。
課業畢る。午下早々戸田氏ニ教授して、岩倉氏ニ行、教授済て直に新宿石山家ニ行。御苑の新緑蒼々たるに逍遙して、日暮の風色、又花にもまさる。この石山家ニ一宿す。夜、安富いく子も来る。謡なそにて面白くくらしぬ。

五月十六日 己丑 水曜 晴。
朝とく起て、御苑一周す。朝飯済て、八時迎の車にて帰る。来客、井上市兵衛、その姉岩井某、昼飯済て去る。

五月十七日 庚寅 木曜 晴。
課業例の如し。午下閑院様ニ詣し、御稽古上て帰る。

五月十八日 辛卯 金曜 晴。
課業例の如し。米倉定造、斎藤千賀子の結婚日ニ付、午下四時、余、愛治郎、桃子と同じく、紅葉館ニ招かる。御祝儀済て一同列座する。献酬なかは頃より、紅葉館踏舞及講釈貞水仕る。盛会。夜八時、めて度畢而坐を開く。

*講釈(講釈)

五月十九日 壬辰 土曜 晴。

課業如例。来客、米倉秀造妻千賀子、御礼ニ来る。

*米倉（秀（ママ））造

五月二十日 癸巳 日曜 晴。

朝、宗家信楽院様の御悔ニ出る。香料金二円。来客、江副熊、静子、退校御礼ニ来る。千家信子、退校御礼ニ来る。午下三時より、余、愛治郎、桃子と同しく、米倉千賀子里開ニ付、斎藤氏より招かる。余興、紅葉踏舞、落語、杵屋連、盛会也。八時、めて度済て帰る。此時、小雨。入塾、大塚松子、春子。

江副静より白縮緬一反。千家信子、絹一反。

受方摘要 江副氏、十円。

五月二十一日 甲午 月曜 午前大雨、二時頃より晴渡り、殊にあつし。

課業畢る。三時より、余、桃子と同しく、毛利公爵邸園遊会ニ参集す。午前の時にて、皆御座敷にて饗応也。余興立食済て、五時帰。美佐子様の姫御子も大く愛らしく、御国より始めて御入也。帰路、角田氏ニ寄、四三子に面晤、暫時にして帰る。来客、米倉秀造。

*米倉（秀（ママ））造

五月二十二日 乙未 火曜 晴。八十度。

課業例の如し。

五月二十三日 丙申 水曜 晴。八十度。

課業例の如し。午下、佐野氏二行。斎藤保蔵縁段齊ひたるにより、祝物贈る。白絹一反、松魚三円。

*縁段（縁談）

五月二十四日 丁酉 木曜 雨、午下晴。

課業例の如し。来客、斎藤仁子、吉田豊治郎及其妹二人娘、八十島入塾願出る、大滝氏。

受方摘要 吉田氏、八十島、四人より五円。

五月二十五日 戊戌 金曜 晴。

課業畢る。午下閑院宮ニ詣し、御教授申上て、志賀氏近火見舞ニ行。在宅にて種々教育談をする。晚餐を饗せらる。去而小松宮ニ詣し、近火御見舞申上て帰。

五月二十六日 己亥 土曜 晴。

課業例の如し。入塾、吉田はる、らく、まつ、八十島ます。

受方摘要 吉田三人、八十島増、五円。

五月二十七日 庚子 日曜 晴。

朝より志賀鉄千代、丹羽花子、松野老母来られ、利根子縁談斉ひたる御札申さる。午下、五島善子、第二嬢を連れ来る。夜、玉枝、三治郎来る。入塾、小泉竹子。
受方摘要 小泉竹、三円。

五月二十八日 辛丑 月曜 地久節。曇。さむし。

皇后宮地久節二付、休業。午下、貴婦人会二行、宗信楽院殿法事読経有。畢而説教三座、已而帰。

五月二十九日 壬寅 火曜 雨、午下晴。

課業例の如し。午下、戸田氏、岩倉家に教授して帰。揮毫す。

五月三十日 癸卯 水曜 雨。

課業例の如し。

五月三十一日 甲辰 木曜 きり雨、夜二入て雨。

課業例の如し。来客、江副米子、新築開きに付二日招待之事申来る。

午下三時より素謡会

松風 桃洲

杜若 花

千手 愛 仕舞数番

(五月会計、記載ナシ)

(六月)

六月一日 乙巳 金曜 晴、夜雨。

御宝前祭祀す。朝飯後、墓参して帰。

田村氏より、ゆかた二反。

弘方摘要 大和田氏え五円。

六月二日 丙午 土曜 晴、夜細雨。

課業畢る。午下三時より、余、愛治郎、桃子、栄子と同し(く)、靈南坂江副廉三氏の招に

応ず。新築落成にて、庭園樹木石等位置もよく出来、楼上の風色他と異り、芝山内愛宏山の森山の如く、品海も樹間に見え、市中も遠くの眺望にて珍らしき景色也。すへて東南を受けたる座敷にて、陽気也。調理も西京風にて美味適す。余興ハ糸竹、熊子、米子、静子の琴、萩岡豊せなどにて面白く聞候ぬ。十時帰。相客ハ志賀鉄千代、松野老母、久米利根子也。来客、福井豊子、塩原夏子病氣二付、連帰る。

*芝山内愛宏山(芝山内愛宕山)

六月三日 丁未 日曜 晴。

来客、浦三郎、戸田銚子、安齋国子父国子退校ニ付御礼ニ来る。終日揮毫する。

六月四日 戊申 月曜 晴。

課業例の如し。入門、田村花井妹。

六月五日 己酉 火曜 晴。

課業例の如し。午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。

六月六日 庚戌 水曜 雨。

課業例の如し。

六月七日 辛亥 木曜 朝雨、已而晴。

課業如例。

六月八日 壬子 金曜

課業例の如し。来客、斎藤善子、すへての御礼ニ来る。

米倉千賀子より白縮緬一反。

受方摘要 斎藤蔵之介、五十円。斎藤松野、三十円。

六月九日 癸丑 土曜 晴。

課業畢、校友会雑誌出来上り、会員え分配す。皇太子殿下、同妃殿下えも献呈す。

六月十日 甲寅 日曜 晴。

午前十時より御所姉小路良子の君御局え参り、久々にて種々御物語り承り申上て、二度戴て、四方山の御咄しの内、又々御八ツを戴く。校友会雑誌、皇后陛下え献上願上、外紅梅典侍、新樹典侍よりはしめ、内侍さま、命婦さまえも分配いたし候。三時頃帰る。大坂人矢島竜子父及木下氏来る。矢島氏より白絹一反。

六月十一日 乙卯 月曜 雨、終日大雨不止。
早起。余、青木いく恵と同しく、散歩して帰。入塾、今井恵賀。

六月十二日 丙辰 火曜 晴。
入塾、矢島竜子。午下、戸田氏、岩倉家ニ教授して帰。朝、散歩す。
毛利御奥より、お召一反。

六月十三日 丁巳 水曜 晴。
半日教授す。朝、いく恵、よし子を連れて散歩して帰。

六月十四日 戊午 木曜 晴。
朝散歩して帰。入塾、梶谷暉子、入来菊子。鶴子、麻疹にかゝり、けふハ瀬戸なり。苦痛もひとく、総身一面に発す。

受方摘要 閑院宮様より三拾円。日本銀行利子、七円五十銭。

六月十五日 己未 金曜 晴、夕景より雨。寒し、六十度。
朝散歩して帰。来客、石山すま子、一宿。此朝一番船にて、すま子弟の嫁、房州姉小路へ行。此日、園中ニ一大講舎建築之計画ス、午後三時也。来客、中村幸子。鶴子病氣もけふハ少々よき方向ふ。

六月十六日 庚申 土曜 陰。さむし。
朝散歩して帰。入門、甲藤直。校友会雑誌を贈る、木津小野氏え、辻八千え、久枝朝子え、吉田滝子、錦織隆子え。

六月十七日 辛酉 日曜 晴。寒し。
服部氏、歌の当座会を催す。生徒ぬき出して廿三名也。

六月十八日 壬戌 月曜 晴。
朝散歩して帰。課業例の如し。入門、甲藤直子。
受方摘要 閑院宮様、三十円。

六月十九日 癸亥 火曜 晴。
朝、散歩して帰。課業畢る。正午早々戸田氏、岩倉氏に教授して帰。清国ハ各国をひかへて、已に戦端を開きたり。我兵太沽の一砲台を占領セリ、一昨十八日也。午下五時頃、駒込朝香町火。来客、万里小路氏。

*朝香町（浅嘉町）

六月二十日 甲子 水曜 晴。

朝散歩、日光亭に菖蒲を見る。真盛也。已而帰。課業例の如し。

六月二十一日 乙丑 木曜 晴。

朝散歩して帰。課業例の如し。

六月二十二日 丙寅 金曜 晴。始而あつし。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下、閑院宮様に御教授申上て帰。此午前二時前、つい向町ニ火アリ。大々驚たれと、風なくて好都合也。見物の人々三時後臥。五軒の焼にて沈火。

*沈火（鎮火）

六月二十三日 丁卯 土曜 晴、夜中雨。

朝、散歩して帰。今井美和子病氣ニ付、夜角田氏え送る。

受方摘要 九条家、千疋。

六月二十四日 戊辰 日曜 晴。

来客、大橋幸子、出産児茂子を連れて来る。事務所安田氏、暇乞来る。栄子、麻疹にかゝる。今夕より臥。

弘方摘要 安田氏え千疋。

六月二十五日 己巳 月曜 雨。

朝、散歩して帰。今朝、御所より御使有。藤袴内侍様より御玉章ニて、此程皇宮様え献上の汲泉雑誌、御慰みさまニも成らせられ、殊の外御満足さまにて、この御文庫の内花蹊え下さるとの事也。有かたう拝見申上候処、皇后様御好製にて織らさせに相成たるかた織御机懸、ひわ地に八重椿の模様にて、実に結構なる御品、外に毛植の犬に同猿の乗たるに同犬ちゃん、御人形金の烏帽子きたる鯉魚を持たると鶏を持たると、つゝれ織の御煙草入、銀の御きせると、同じ御切れにて御袖入と御文庫共賜り、実に冥加に余りし事共にて、生徒えも此よし申聞し、尚々諸学事勉強の事をかたり聞せ、有かたき事にこそ。

来客、斎藤常子、母宮子来。

*かた織（固織） *ひわ地（鶉地） *つゝれ織（綴織）

六月二十六日 庚午 火曜 晴。

朝、牛天神に参詣して帰。午下、戸田、岩倉氏ニ教授して帰。

六月二十七日 辛未 水曜 晴、夜雨。

朝、散歩して帰。来客、すま子、一宿。栄子、麻疹よく発す。熱度四十度三部。

*四十度三部(四十度三分)

六月二十八日 壬申 木曜 晴。

朝、散歩して帰。午下、素謡会す。余小原御幸、桃子三輪、すま子熊野也。外二仕舞も有。六時頃済。

弘方摘要 大和田氏、五円。小石川柳町貧民え五円。

六月二十九日 癸酉 金曜 晴。

朝、散歩して帰。午下、閑院宮様え詣し、御教授申上て帰。

六月三十日 甲戌 土曜 陰。

朝、氷川神社ニ参詣して帰。習字試験する。

弘方摘要 氷川神社え五十銭。

(六月会計、記載ナシ)

(七月)

七月一日 乙亥 日曜 雨。

朝、齒医中村氏ニ行、埋てもらひて帰。

岡本よし子より浴衣一反。

七月二日 丙子 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

受方摘要 三条家より、十円。

七月三日 丁丑 火曜 晴。

朝五時半より出て、岩倉家ニ教授して帰。午前十一時、皇后陛下、皇太子妃殿下、この門前を御通行にて、生徒一同奉迎する。御還啓も同しく奉送する。陛下御機嫌御うるはしう見奉る。去る一日、房州鏡浦、千頭の鯨寄せ来る。古しへより未曾有の幸也。

岩倉氏よりすきや一反。

受方摘要 十八円。

*すきや(透綾)

七月四日 戊寅 水曜
朝、散歩して帰。栄子、床払する。

七月五日 己卯 木曜 朝より雨、已而晴。
課業例の如し。来客、万里通房伯。
受方摘要 金三円、藪兼子。

七月六日 庚辰 金曜 朝より雨。
課業例の如し。来客、佐野隠居。
井深氏よりなるみ二反。

受方摘要 斎藤常子、十円。同、千疋。園典侍、三円。
*なるみ(鳴海)

七月七日 辛巳 土曜 陰。
課業例の如し。朝散歩して帰。
田村盛子より小紋御召一反。

受方摘要 会計より二、三、四、五、六、五ヶ月分、廿五円。
払方摘要 二月雜費、五円三十一銭。三月分、廿二円七銭五り。四月分、拾壹円八十二(銭)。
五月分、二七円二十二(銭)。六月分、八円九四(銭)三(厘)。
*五り(五厘)

七月八日 壬午 日曜 昨夜より大雨、朝よりも大雨にて出水、暫時にして引、空もまた晴わたる。地震。

朝より揮毫物する。講堂、小石川衛生会に借す。来客、中条氏。
渡辺安子、浴衣二反。
受方摘要 吉田鉦子、三円。平田三枝、同。樹下定江、同。生源寺いさを、同。大東豊子、同。渡辺安、五円。

*借す(貸す)

七月九日 癸未 月曜 晴。
早起。脚気生徒八人を連て散歩、露のをく草の上を踏ならず。已而帰。午下、閑院宮様え参り、御稽古申上而去る。来客、安田暉子、誕生の嬢も。

受方摘要 安田氏、三円。
*をく(置く)

七月十日 甲申 火曜 晴。

早起。散歩して帰。七時より戸田氏に教授して帰。この日より稽古納めをなす。来客、上田はつ、入江賀津江、岩浪稲子。午下、樗会を催す。戸田兩人よりすきや一反。

受方摘要 戸田氏、廿円。片平氏、五円。

*すきや(透綾)

七月十一日 乙酉 水曜 陰晴不定。

早起。散歩して帰。課業例の如し。午下、余、桃子と上野勸業場二行、買物して帰。弘方摘要 買物、十四円。

七月十二日 丙戌 木曜 雨。

課業例の如し。方々え中元之祝義を出す。来客、角田栄子。

宮本氏より浴衣一反。

受方摘要 上杉氏、二円。

*祝義(祝儀)

七月十三日 丁亥 金曜 晴。八十二度。

早起。散歩して帰。課業例の如し。方々え中元之御祝義品物配付す。

玉川氏より浴衣三反。原氏より紋絹一反、紹博多帯。

受方摘要 駒井雪、二円。五軒町、壱円五十銭。今城友、二円五十銭。西村喜三郎、二円。

松平妙、二円五十銭。

*祝義(祝儀)

七月十四日 戊子 土曜 晴。八十二度。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、北白川宮様に詣し、当宮様御はしめ御内御一統様ニ拝謁、しはらく御咄し申上て去ル。閑院宮様ニ詣し、御息所様御はしめ姫宮様方ニ拝謁申上て、三条家ニ参り、治子様御はしめ御一統様ニ御目にかゝり、久々の御咄しも申上候帰り、小松宮様え上り、御不在中にて糸島ニ逢而帰。日暮也。来客、斎藤仁子。

閑院宮様、紹織御めし一反。

受方摘要 三条家、五円。斎藤梅、十円。松平鏞、二円五十銭。松平栄、二円五十銭。

塩原松、五円。

七月十五日 己丑 月曜 八十二度、その暑さ第一とす。

朝、墓参して帰。祭祀を行ふ。来客、原三幸。午下五時頃より小松宮様ニ参殿、御両所様

二拝謁。徳水館にて御晩餐饗せられ、御息所様御案内にて庭一周する。この徳水の涼しさは実に夏しらす、すこしさむきを覚ゆる也。御余興もあらせられ、面白き事也。小雨にて月なく残念ながら、この川の景色は得も言えぬさま也。九時後退出す。原時子より浴衣一反、赤フラネル一反。

七月十六日 庚寅 月曜 雨、終日の雨也。七十度。
課業例の如し。

七月十七日 辛卯 火曜 雨、終日のふり也。七十度、さむし。
課業例の如し。来客、松永安彦、千家信子。伊丹重賢十五日死去二付、菓子備えル。
松永氏、縮緬すきや一反。

受方摘要 福井とし、二円。
*備えル(供えル) *すきや(透綾)

七月十八日 壬辰 水曜 雨、終日の雨にて冷氣、綿入羽織を着す。
課業例の如し。

七月十九日 癸巳 木曜 雨、雨ふりて冷氣。
課業例の如し。来客、山崎初喜母。石山すま子、山形菊、仁科駒、三人一宿。午下より素謡納会。草子洗桃子、角田川、花松風、大和田遊行柳、愛四番也。仕舞数番、点灯頃済。
山崎氏より浴衣一反。

七月二十日 甲午 金曜 陰、猶さむし。
授業納めをなす。夕景より塾生一同紅灯に火を点して一人二一張をもち、唱歌をうたひながら家の周囲をめぐる。また運動場にて、手を引合てうたひあるく。九時を報して皆万歳をとなへてやむ。昨日よりの来客、夕景皆帰去。来客、志賀重昂氏。

七月二十一日 乙未 土曜 晴。八十三度、始めての暑さ也。
朝より塾生続々帰省す。来客、桐島みつ子。吉田辰枝より書至、一昨十八日午前一時男子分婉、兩人共至極健全。
受方摘要 森兩人、五円。

七月二十二日 丙申 日曜 晴。八十一度。
朝四時、散歩して墓参する。已而帰。わか室の大掃除する。
小松宮殿下より麻さらし一反。
受方摘要 小松宮殿下、二円五十銭。

*わか(我が)

七月二十三日 丁酉 月曜 晴。

朝五時、散歩して帰。校舎之上棟式を執行す。大坂辻八千、唯専寺、京都大聖寺、同木田氏、濃州遠藤氏、同青木氏、東京南条氏、小包郵便ニテ出ス。来客、田中源太郎妻、後藤幸子。

受方摘要 徳川氏、五円。山田梅、四円。

払方摘要 銀行え預ケ金、二百円。

七月二十四日 戊戌 火曜 晴、朝細雨、已而晴。八十二度。

鶴子、幾恵、朝九時の汽車にて横浜に向ふ。小池清迎ひに来る。愛治郎、弘、石神井村二行。井上市兵衛来。京都糸桜内侍より書至。美濃遠藤より、うちわ十本着。

受方摘要 錦織隆子、吉田滝子、二円五十銭。

七月二十五日 己亥 水曜 晴。八十六度。

奥の大掃除を行ふ。予ハ絹本式尺巾堅物、富貴天香之図揮毫す。

受方摘要 浜荻典侍、五円。智子、一円廿五銭。

七月二十六日 庚子 木曜 晴。九十二度、夜熱つよく、不睡。

朝より揮毫す。来客、内田幸子。

七月二十七日 辛丑 金曜 晴。九十二度、夜苦熱、不眠就。

朝より揮毫す。来客、小泉国子、一宿。

小泉国子より紋紹一反。

七月二十八日 壬寅 土曜 陰。朝すゝし。

早起。三時仕度して、余、愛治郎、桃子、栄子、菊江、小泉国と同しく、四時出門、不忍の蓮花を見る。七分通り咲出たる見頃也。観客も随分アリ。暫時逍遙して、入谷牽牛花を観る、真盛り。人もをし合ふ程也。盆栽物求めて帰。木田万右衛門氏ヨリ煎茶玉露着。

払方摘要 盆栽カン竹、一円。盆景一、八十銭。

*をし合ふ(押し合ふ) *盆栽カン竹(盆栽寒竹)

七月二十九日 癸卯 日曜 陰。七十二度。

朝来客、重たけ、万里小路伯。予、十時頃より淀橋なる伊丹氏二行、喪を問ふ。伊丹重賢氏の逝去の前日辞世にかゝれたる金地二枚折を横にして、

国のためなにいさをもなきからを野山にすてゝ犬をこやせよ 重賢

と、筆ふとにかゝれたり。実に感ずるに余りあり。病状等をその夫人より細かに聞て帰る。御苑石山氏二行。御苑の室に入て、種々なる各国の花を見る。夕飯を喫て帰。小泉国子帰。
*重たけ(重威) *筆ふと(筆太)

七月三十日 甲辰 月曜 陰。七十度、羽織を重ぬ。
終日揮毫す。御寺御所より南京四箇着。

七月三十一日 乙巳 火曜 晴。七十五度。
終日揮毫す。

(七月会計、記載ナシ)

(八月)

八月一日 丙午 水曜 晴。八十一度。

早起。氷川神社に参詣、帰路墓参して帰。児島惟謙長男正一郎氏ハ北京公使館在勤中、戦死致され候赴二付、愛治郎、此朝児島氏え悔二行。七月廿九日伊太利皇帝御非命、宮中喪仰出さる。

*赴(趣)

(八月二日、記載ナシ)

八月三日 戊申 金曜 晴。

終日揮毫す。予、田村氏を伺ひ、長子と利久仁と謠、角田川、小原御幸、二番をうたひて帰る。来客、大炊御門晨子、万里小路直房。

八月四日 己酉 土曜 晴。八十五度。

終日揮毫す。来客、吉見捨子、辰子。両国川開にて煙火音切なり。

甲藤直子、浴衣一反。

弘方摘要 泰え旅費、十円。

*切(しきり)

八月五日 庚戌 日曜 晴。八十五度。

早起。泰、明石を連て、朝六時本所之汽車一番にて茨木地方え修学旅行する。予、揮毫す。山県酒田白崎之依願、絹本三葉鷺箋聯落、小包ニテ出す。

*茨木(茨城) *山県(山形) *鷲箋(画牋)

八月六日 辛亥 月曜 晴。八十五度。
早起。揮毫す。所々十一家え暑中見舞の書を寄す。

八月七日 壬子 火曜 晴。八十八度、夜月清し。

早起。揮毫す。朝十時十分の汽車にて、栄子、横浜原氏二行。小池清、随行す。

八月八日 癸丑 水曜 立秋。晴。八十八度。

早起。揮毫する。来客、関博直、跡見玉枝。

八月九日 甲寅 木曜 晴。朝より八十九度。

朝より揮毫する。正子、大炊氏より石山家に行。約ありて、午下五時より余、桃子と同しく、閑院宮様に参る。御息所君と御園中逍遙、東亭に小憩、涼気秋の如し。やかて六時過たる頃より御洋館ニ於みて晚餐を饗せらる。少而月出、一点の雲もなく、これ正に十五夜にして、その光り鏡の如し。此御洋館より四方の眺望、実に仙境也。種々旧を話しつゝ食事、済て去る。帰途、又月下、車に乗して涼を追つゝ、九時帰宅す。正子も此時帰宅す。
*饗せらる(饗せらる)

八月十日 乙卯 金曜 晴。空雨に成りそふにして又晴渡る。月、又清光。八十八度。

朝四時火、報鐘切にして窓を開は、直東に火有。余、桃子と同しく丸山に上る。已而沈火す。本郷六丁目大学の前、三、四家焼失すと。散歩して帰る。揮毫す。夕景より三治郎来、謡唱して帰る。訃音、今井静子昨午前五時死去。一同驚愕不堪。

*切(しきり) *沈火(鎮火)

八月十一日 丙辰 土曜 晴。九十二度。

朝四時起。散歩して帰。横浜今井氏、三浦氏を使す。香料千疋を贈る。午下五時より、余、愛治郎、正子、桃子、菊枝、三治郎と同しく、納涼船を舩して、水道場際より船に乗して行。普通の屋根船より大きくて広し。名溪わたりの風色は、いつもながら又一しほのなかも也。大川に出る頃、点灯。携来れる弁当を喫し、安田氏の辺にて月出。其大なる、盥の如し。船を小松宮御別邸のほとりにて留め、御弦音など暫聞居たり。やかて船を廻らして流し行。月の流に移りて、金波の上をわたりつゝ、各謡など哥ふて、涼風又類ひなし。九時半着。

*使す(遣す) *名溪(茗溪) *移りて(映りて)

八月十二日 丁巳 日曜 九十度。

早起。揮毫す。午下雨氣を催し、午下俄然白雨一掃す。待に待たる雨とて、一同の喜限りなし。暫時にして晴。先五分の雨也。日本橋区辺ハ雨なしといふ。頗涼氣を催すへくも左なくて、暑さもとの如し。降たらず。七月十九日雨降りて、この日を以て始とす。所々水かれ、困却言ふへからず。

*左なくて(然なくて) *降たらず(降足らず) *かれ(涸れ)

八月十三日 戊午 月曜 晴。九十一度。

きのふの雨にて涼氣を思ふて、余、桃子と横浜行を思立、八時の汽車に乗す。この時よりして熱たへかたく、大急行にて暫時のうちに着。老松の茂木氏に行、栄子と種々物語りす。この度誕生の男子、名を泰治郎といふ。至て大きく智恵も早く、六月に出生す。もはやよく笑ひ、何やらかたりいだし、立派なる子也。十一時頃、また原氏二行、先一番涼しき洋館の二階にて休憩す。種々名画を觀而、昼飯を饗せられる。とても三ノ谷えはこの暑氣に行兼て、電話にて断る。こゝに午睡して、五時暇をつけて、長谷川氏を訪ふ。静子の母子に逢ひ、病氣の模様等も咄され、実に残念の至也。今井友治郎氏にも逢ふ。六時三十分汽車にて帰る。

払方摘要 横浜行入費、四円。

*つけて(告げて)

八月十四日 己未 火曜 晴。九十度。

早起。揮毫す。泰、銚子地方、水戸より日光を経て帰、本日午下五時。

八月十五日 庚申 水曜 晴。八十八度。

早起。揮毫す。三浦氏、横浜三谷え迎に遣す。同、五時三十分の汽車にて帰。栄子、鶴子恙なし。書至、岩倉八千子。

八月十六日 辛酉 木曜 晴。九十一度。

朝四時起。散歩して帰。泰、六時汽車にて石神井村二行。揮毫す。

八月十七日 壬戌 金曜 晴。九十度。

朝四時起。散歩して帰。揮毫す。弘、泰、石神井より帰宅す。来客、五時頃石山須磨子来る。夕七時頃より俄然雨降出し、漸豪雨となる。皆々天を仰て大喜ひなり。すま子一宿。

八月十八日 癸亥 土曜 雨。八十一度。

朝四時起。大雨、少し風を添ふ。

夕景、号外来。

聯合車、十五日朝ヨリ北京東方より砲撃せしが、敵ハ城壁を頼み頑固に抵抗せり。夕

刻、日本軍ハ朝陽及東直門を破壊し、城内に進入し、他国軍ハ東便門より進入して、直に衛兵を公使館に出し聯絡せり。公使以下異状なし。我が死傷、将校以下百余、敵の死傷三、四百余也。

是を讀上て挙家一同万歳を唱へ、一先安堵。志賀重昂氏、脱兎之書至。

*聯合軍(連合軍)

八月十九日 甲子 日曜 九十度。

朝より大風雨、終日陰雨不定。北京陥落之祝宴を設く。

八月二十日 乙丑 月曜 晴雨不定。九十度。

朝四時起。須磨子、朝帰宅する。

八月二十一日 丙寅 火曜 晴。九十一度。

朝四時起。散歩して帰。揮毫する。

八月二十二日 丁卯 水曜 晴。九十二度。

朝四時起。墓参して帰。揮毫す。来客、井上秋子。

八月二十三日 戊辰 木曜 晴。九十度。

朝四時起。書を寄す、今村栄子、俵松子、米倉千賀子、瀬川久可子。

八月二十四日 己巳 金曜 晴。九十度。

朝四時起。散歩して帰。瀬川久可子え絹本老松日出之図、酒匂之風色、二枚渡す。田島春子え絹本二幅対、老松日の出之図、梅花竹之図渡す。

八月二十五日 庚午 土曜 旧八朔日。晴。八十九度。

朝四時、牛天神に参詣して帰。揮毫す。

八月二十六日 辛未 日曜 晴。九十四度。

朝四時起。散歩して帰。午后一時より新築校舎にて小石川衛生会開会ニ借す。来会者百人弱也。此日の炎熱堪かたし。この来会者に氷を饗す。一同大満足にて四時散会す。

*校舎(にて)(ママ) *借す(貸す)

八月二十七日 壬申 月曜 晴。九十六度。

朝四時、散歩して帰。来客、北白川宮稲子。小松宮様より来月三日御息所御誕生日ニ付、召さる。御受申上る。炎熱赫々、本年第一の暑さ也。余もあつさに堪かねて水風呂に入る。

尚暑し。夕景より戌亥のかたより黒雲来りて、雷鳴と共に夕立雨さつと降り来る。皆々天を仰て雨待つゝ祈る。已而晴。
受方摘要 田島氏、十円。

八月二十八日 癸酉 火曜 晴。八十二度。

朝四時起。昨夜の雨にて始て涼気を覚ゆ。八時頃より九条様に詣し、一位様の御病気を訪問す。今日迄に四日間、未だ御さし込等参らす。御中謝の故なるか。医師の診談にてハ御見込なしといふ。皆々御心配の御模様也。恵子様^ハに御委細伺候て帰。

*中謝(注射) *診談(診断)

八月二十九日 甲戌 水曜 晴。八十四度、冷氣。

朝四時起。散歩して帰。伯母弁子祭典を行ふ。揮毫す。

八月三十日 乙亥 木曜 晴。八十一度。

早起。揮毫す。来客、守屋玉江、伊藤静江。

八月三十一日 丙子 金曜 晴。八十度。

朝四時起。散歩して帰。祭典す。来客、松永姉妹。

(八月会計、記載ナシ)

(九月)

九月一日 丁丑 土曜 晴。八十五度。

四時起。氷川神社ニ詣て、それより墓参して帰、祭祀を行ふ。来客、田中謙之介及其嬢と来る。入塾申込れ候。入塾、(以下、記述ナシ)

九月二日 戊寅 日曜 晴。八十八度。

余、風邪にて終日臥。来客、瀬川久可子。帰塾、宮崎糸、衣笠晴。靖子、夕景石神井より来る。よほとやせて、乳の不足と覚える。

受方摘要 瀬川氏、十円。

九月三日 己卯 月曜 晴。八十六度。

朝、靖子に始めて牛乳一合を吸せる。実はそのすみやかに一合を喫する。全く乳の不足也。午後三時より橋場小松宮御殿に詣す。大御息所の御誕辰ニ付、かねて御招に預りたる也。

御客、若宮御夫婦、有馬氏、秋宮及御夫婦、花房夫婦、丹羽氏、上野氏、外に軍人等也。頗御余興もあらせられ、大御盛会。十一時、余ハ退出す。来客、木津之人榎間鷗処。玉川氏より白縮緬一反。

九月四日 庚辰 火曜 晴。八十八度。

早起。教場取調に裝飾す。来客、大吉騰一郎及林子、金丸安子母。

受方摘要 金丸氏、五円。

九月五日 辛巳 水曜 晴。八十六度。

早起。散歩して帰。追々塾生帰塾す。来客、斎藤常子母。

斎藤氏、黒襦子帯地。

受方摘要 藤山枝、三円。

*黒襦子(黒襦子)

九月六日 壬午 木曜 晴。炎熱甚、八十九度。

早起。散歩して帰。授業始をなす。塾、通学ともよく集会す。新入生(コノ文、以下記述ナシ)。校舎の新築ニテ習字授業す。先々すへてよくととのひて嬉しうこそ。今迄日々せまきに困しはてたるも、漸く安堵す。夕景より雨降出し、夜ニ入て大雨、実に豪雨、可喜。矢内氏より単地一反。飯島氏、単地一反。

受方摘要 田中静、三円。

九月七日 癸未 金曜 雨、細雨時々降しきる。八十五度。

早起。授業例の如し。畢而午下閑院宮に詣す。今朝、欧州御漫遊御帰朝に相成、恐悦申上、拝謁、種々御咄し等も伺て、直ニ退去る。

九月八日 甲申 土曜 晴又雨。八十六度。

余、泰と同じく朝六時出門、新橋汽車七時五十分にて葉山御用邸に参る。天晴朗、炎熱甚。**厨子**、二時間にて着。それより人車にて行、一時間余にて御用邸ニ着。良子様御始、御待うけ被遊、御坐敷に通る。御庭則海也。北東ハすへて山、南西海にて、近くハ長者が岬、遠く伊豆の大島、西にハ箱根、富士山、**絵の島**、**鎌くら**を見わたし、一大画図中也。清風も世の外のすゝしき、実に神郷也。午餐済て、時に万里伯来られる、妙也。御本邸え参り、御殿の修理よくととのはせられ、東宮殿下、御永住の御建築とや。御庭に下りて御茶屋、また下りて御涼所、是ハ天然に海えつき出たる岩の上にてたてられたるにて、東宮殿下の御好みといふ。拝見畢りて南御用邸に帰りぬ。時に侍医森永氏来られぬ。今夜、中秋の月を樂しみ待かねたるに雲かゝりて、暫時**御椽**にて種々の御咄しのうち、雲間を出たる月のさやけき、皆々打興し、月を賞し、浪の上に黄金のはしかけたるハ葉山の月、名所ならむ。

この殿に一宿りす。夜すから浪の音、さなから楽の声なりけり。

*厨子(逗子) *絵の島(江の島) *鎌くら(鎌倉) *御椽(御縁)

九月九日 乙酉 日曜 晴。八十六度。

朝四時頃起出て、海つら散歩して、浪のよせくるを見て、謡をうたふ。人影だもなくのんき也。やかて帰りて、五時頃より良子様、その外とも北の海岸逍遙して御帰殿。朝げいたゝきて、また南の海岸を散歩す。長者の岬より子産石のほとりにて石を捨ふ、八ツ。実に珍らしきもの也。岩に腰懸て、四方の風色を眺め、富士もけふ稀に見る処也。上の岸边を散歩して帰殿す。御昼戴く。湯に入りて仕度もとゝのひ、三時御暇申上て帰途に付く。四時三十分厨子の汽車にて帰る。十六夜の月、実にさえ渡り一点の雲もなく鏡の如し。六時三十分新橋着。迎ひ来りて、八時前無事着。氷川神社祭りにて市中賑はし。

払方摘要 旅費、七円九十銭。

*海つら(海面) *朝げ(朝餉) *捨ふ(捨ふ) *けふ(今日) *厨子(逗子)

九月十日 丙戌 月曜 晴。八十二度。

課業例の如し。昨日不在中に、長谷川幸子母来て袱子下絵頼みたるよしにて、今日かきて贈る。氷川神社祭礼、提灯まつりとや。

受方摘要 左右田静、五円。吉川常、一円。

九月十一日 丁亥 火曜 晴。

課業例の如し。朝五時、氷川神社参詣して帰。

受方摘要 内藤済、一円。

九月十二日 戊子 水曜 雨。

課業例の如し。来客、小山田操、戸川勇吉氏に嫁し、御礼ニ来る。

受方摘要 小山田氏、三円。

九月十三日 己丑 木曜 陰。七十五度。

早起。散歩して帰。課業例の如し。入塾、富田仙介長女信。

九月十四日 庚寅 金曜 晴、深夜雨。朝より八十二度、午下五度ニ上而熱甚し。課業例の如し。

九月十五日 辛卯 土曜 陰。七十五度。

朝五時より墓参して帰。課業例の如し。来客、福井豊子、その妹二人を連来る。

受方摘要 塩原松子、二円。小泉竹、二円。

九月十六日 壬辰 日曜 晴。八十五度。
児島惟謙の男、北京より遺骨贈られ、今朝九時出棺に付、愛治郎会葬す。

九月十七日 癸巳 月曜 晴。七十五度、涼気始生。
早起。散歩して帰。課業例の如し。来客、有吉平吉。

九月十八日 甲午 火曜 晴、夜雨。七十六度。

課業例の如し。朝六時より岩倉氏御稽古始めに付、往て帰。午下三時半より七号教場にて、予て約したる志賀重昂氏講義聴聞す。先地理よりして人間万般に渡り、実に面白く、生徒一同大満足を能ふ。五時過済。入塾、串田繁子。来客、今津久子、串田氏母、夜玉枝、玉汀。徳川氏え法帖二冊、小包にて出す。

*能ふ(与ふ)

九月十九日 乙未 水曜 雨、夜豪雨。

課業例の如し。入門、富田ひさ、同、梶新。

九月二十日 丙申 木曜 彼岸の入り。晴。八十七度。

課業例の如し。昨日より夜にかけての豪雨の跡晴たれば、その炎熱堪かたし。閑院宮様より御帰朝の御土産とあらせられ、手かばん極斬新仏蘭西製、同製フランネル三反。閑院宮殿下より、フランネル三反。

九月二十一日 丁酉 金曜 晴、夜に入て雨。八十二度。

課業例の如し。来客、京都の小林、玉枝の紹介。

九月二十二日 戊戌 土曜 陰。尚あつし。

早起。墓参して帰。課業例の如し。午下、閑院宮様え御礼ニ参る。両殿下拝謁して帰。弘事、石山家より始而帰。

九月二十三日 己亥 日曜 雨晴不定。同しくあつし。

秋季皇霊祭。祖先祭り執行す。重たけ、いく子も参る。生徒一同参拝済て、御すもしを出す。家内九人、写真撮影す。弘、石山家ニ帰る。

*重たけ(重威)

九月二十四日 庚子 月曜 雨。あつし。

雨終日降つゝく。

九月二十五日 辛丑 火曜 晴。あつし。

午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。近世少年記者来る。来客、桐島光子、裏松千代子。訃音、吉田秀毅去ル十七日死去。吉田平三郎より知らせあり。書至、小池道子。

汲泉を見て、

まし水の清きなかれをくむ人のこゝろの底もすみまさるらむ

九月二十六日 壬寅 水曜 晴。七十六度。

早起。散歩して帰。近世少年記者、写真師つれ来る。

九月二十七日 癸卯 木曜 晴、夕かたより雨降。

靖子事、此度更二元石神井村谷原横山光太郎方え里ニ預ける。

九月二十八日 甲辰 金曜 当年第一の暴風雨也。

朝より暴風雨すさましく、庭の樹木三本**た折る**。水害もなく昼迄にて晴。

*た折る(倒る)

九月二十九日 乙巳 土曜 晴、夜通し雨降しきる。

桃子、栄子、朝七時五十分之汽車ニ而、葉山御用邸ニ参る。

九月三十日 丙午 日曜 晴。七十一度。

新入生廿一人。愛治郎、午下六時之汽車ニテ伊勢遷宮式に参る。桃子、栄子、葉山より新橋六時二十分着、八時帰宅。

(九月会計、記載ナシ)

(十月)

十月一日 丁未 日曜 晴。七十度。

朝、氷川神社より墓参して帰。入塾、岡田八重子。入学、粟津鈴子。訃音、横浜井上松女
昨三十日俄然死去ノよし。

十月二日 戊申 火曜 陰晴不定、この夜雨強し。

志賀氏談話あり。速記者も来る。午下、戸田氏教授して帰。愛治郎、一日午前十時多氏え
無事着、端書来る。横浜井上氏え使者三浦氏行。香奠三円。午前四時地震。

十月三日 己酉 水曜 晴。
入学、湯川米、中沢文子。愛（以下、記述ナシ）

十月四日 庚戌 木曜 晴。七十度。
午後、岩倉氏ニ教授して帰。大和田氏来。姉伯、房州より帰らる。

十月五日 辛亥 金曜 晴。
午下二時過より新橋ニ行。藤袴内侍御帰城ニ付、御迎ひ也。御無事四時着。休憩所にて暫時御咄しにて、是より御別れ申す。姉伯も来られ候。

十月六日 壬子 土曜 晴。
正午十二時、愛治郎京都より着。先無事を祝ふ。

十月七日 癸丑 日曜 晴、夜大雨。
朝九時より、余、妙子、友子、松女を連れて、観世会ニ行。四時畢而帰。当校にて歌会を催す。

十月八日 甲寅 月曜 晴。
入門、渡辺三重。来客、夕景より姉伯来られ、囲棋にて九時帰られる、服部氏来る。

十月九日 乙卯 火曜 晴、夜大雨、風を交る。
入塾、伊藤定子、光子。来客、伊藤氏、母も来る。此夜、服部氏来。
伊藤氏より生絹一反。田村氏よりふらねる一反。

*ふらねる（フラネル）

十月十日 丙辰 水曜 晴。
来客、江副米子、静子。

十月十一日 丁巳 木曜 晴。
午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。退校、山崎節子。書至、宮原氏。
受方摘要 山崎節、七円。

十月十二日 戊午 金曜 陰。
朝、五軒町ニ行。姉小路様、今日より赤十字社ニ入院ニ付、御見舞ニ出、九時帰。

(十月十三日、記載ナシ)

十月十四日 庚申 日曜 雨。

豊彦秋山水一幅、北村より買得ず。

弘方摘要 山水一幅、十五円。

十月十五日 辛酉 月曜 晴。

早起。墓参して帰。祭祀を行ふ。

十月十六日 壬戌 火曜 晴。

来客、佐野隠居。大職官鎌足公祭典二付、五軒町え参拝に参り、帰る。志賀氏講話アリ。

*大職官(大織冠)

十月十七日 癸亥 水曜 晴。

観世宅ニテ一噌米次郎氏催追善会能見物す。五時帰。天晴朗ニテ看客盲満盛会也。

*盲満(充満)

十月十八日 甲子 木曜 晴。

午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して帰。

十月十九日 乙丑 金曜 晴。

午下、余、正子と同じく三井呉服店に行、少々求物して帰。

十月二十日 丙寅 土曜 晴、夜大雨しきり也。

桃子、赤十字社え姉伯の見舞二行。夜八時頃帰。

十月二十一日 丁卯 日曜 雨。

朝ながら格別の降もなくとて、余、幾重と同じく、九時の汽車にて横浜三の谷に行。小池清随行也。雨中ながら、雨にハ逢はて行。三の溪の支那館建築十分の好出来にて、主人の辛苦可思。此度出産の嬢、至而大きく、先々御兩人共**壮建**也。此日、日帰りのつもり処、風雨ニ相成ていかにも帰り兼、一宿す。此度、建築校舎え寄附金一千円領収する。思ひも懸ぬ事にて一入難有事也。

*逢はて(逢はで) *壮建(壮健)

十月二十二日 戊辰 月曜 陰。

朝、飯喫して、九時頃帰途ニテ、十時の汽車にて帰。来客、山本久子。

十月二十三日 己巳 火曜 晴。

午下三時より、予、愛治郎、正子、栄、鶴と同しく、五軒町先祖祭り二付、参詣して夜二入て帰。来客、万里伯、此度直房と智子と結婚之義、相談せられる。元より違存なし。受方摘要 池田かよ、十円。

*義(儀) *違存(異存)

十月二十四日 庚午 水曜 晴。

濃州青木氏より松茸一籠着。京都御寺御所より松たけ、柿着。千葉県三木梅子より柿一籠着。

十月二十五日 辛未 木曜 晴。

午下、岩倉氏ニ教授して帰。来客、石山すま子、大和田氏、駒女、素謡会す。千手桃子、弱法師すま子、鉢木花、きぬた独吟大和田。済て、すま子、駒、一宿。

(十月二十六日、記載ナシ)

十月二十七日 癸酉 土曜 晴。

十二時早々北白川宮御殿ニ詣す。御備物をさし上る。御神前参拝して去、赤十字病院ニ姉伯を訪ふ。別段替りなし。河辺氏も、又はつ子も来る。三時過より帰る。

*備物(供物)

十月二十八日 甲戌 日曜 先々晴。

午下一時より豊島岡ニ行、北白川宮五年祭祀ニ参拝す。四時過帰宅。来客、蒲生氏、古屋朝子。

十月二十九日 乙亥 月曜 陰ながら先々晴。

余、朝七時出門にて裏松家ニ行、裏松氏、万里氏と同行にて、渋谷騎兵学校に行。十時、陛下御臨行御着、騎兵馬場にて乗馬御覧、畢而競走、首取旗取の技術、畢而陛下御前にて賞牌授与式有。畢而還行。余等、弁当の饗応済て帰。来客、内田幸子、志賀鉄千代、久米利根子。

*御臨行(御臨幸) *還行(還幸)

十月三十日 丙子 火曜 晴。

朝より半日の教授、畢而十二時揃にて生徒一同大学植物園に談話会を催す。空晴わたりて好天気、先玄関より議事堂に上りて休憩して、園中ニ入り、各逍遥す。人数百八十余名也。

二時、茶菓を饗す。畢而又園中遊ぶ。生徒の悦ひとかたならず。三時過、生徒一同隧を二列になし、唱歌うたひながら帰る。四時也。

*生徒一同隧(生徒一同隧)

十月三十一日 丁丑 水曜 朝より雨、陰晴不定。七十度、珍らし。

(十月会計、記載ナシ)

(十一月)

(十一月一日、二日、記載ナシ)

十一月三日 庚辰 土曜 天長節。晴。

余、桃子と同行にて、朝九時の汽車にて鎌倉安田氏を問ふ。善三郎夫婦大喜にて、海辺散歩して帰り、午餐を饗せられる。畢而また海辺材木坐わたり散歩す。学校運動会などにて賑々しく、島田三郎夫婦、西村喜作などにも逢。海の風色を賞しつゝ帰り、五時の汽車にて九時帰宅す。

*大喜(大喜)

(十一月四日、十日、記載ナシ)

十一月十一日 戊子 日曜 雨。

小笠原氏よりの招に応じて、余、桃子、三条末子、松平妙子、酒井藤を拉して、朝十時より同氏二行。園遊会の催しなから、朝よりの大雨にて室内の遊び、華族女学校生徒等も来られ、午餐洋食を饗せられる。畢而落語、踏舞等にて、三時過帰。

(十一月十二日、十三日、記載ナシ)

十一月十四日 辛卯 水曜 晴。

午下早々裏松氏二行、万里氏二面会して、此度直房氏結婚ニ付、御祝として小紋御召一反を贈る。青山御所万里小路幸子殿御局ニ参り、此度の御祝義を申入る。御奥御客来にて、幸子さまニハ不逢して帰る。

*祝義(祝儀)

十一月十五日 壬辰 木曜 晴。

午下、宮城姉小路良子様御局に参る。幸良子様御局にて御対面を得、閑談時を移して四時去。汲泉二号、陛下ニ献上す。横浜原氏より宮参りの祝義贈らる。
受方摘要 原氏より十円。

*幸(さいはひ) *祝義(祝儀)

十一月十六日 癸巳 金曜 雨。

朝よりも雨はけしく、終日降つゝ。閑院宮様御稽古御断申上る。此夜十二時過、一眠して、桃子俄に心臓動気高まり、容易ならぬ病氣にて、医師井深氏ハ白山ニ泊り居られ、先々代診来られ手当もいたし、其内井深来られて、漸動気沈まり安心す。全く神経のサヨウにて、心臓に附たるなり。

*動気(動悸) *動気(動悸) *沈まり(鎮まり) *サヨウ(作用)

十一月十七日 甲午 土曜 雨。四十五度。

きのふより降つゝきたる雨も尚はけしく降りまさりて、風さへもいと厳しく、只々陛下の御上のみ思ひつゝけられて、恐入のみ。夜に入てもあられの音すさましく、たゞならず聞えたり。来客、井原副子母、御礼ニ来る。

*あられ(霰)

十一月十八日 乙未 日曜 晴。

始めて空晴わたりて嬉しき心地す。中山栄子書及使来。

(十一月十九日〜二十一日、記載ナシ)

十一月二十二日 己亥 木曜

課業例の如し。此日三時より塾生大半帰宅する。三日間之休暇なり。

十一月二十三日 庚子 金曜 新嘗祭。晴。

休業。

十一月二十四日 辛丑 土曜 晴、夜八時頃雨降。

休業。午下一時の招待に付、余、牛込月下園ニ行、万里小路直房、智子と結婚之祝宴に招かる。五軒町姉小路にて三三の杯済て、此席に来られ、杯の一順廻りて後、新婚旅行鎌倉へ出立せられる。夜七時頃、余等席を開く。

十一月二十五日 壬寅 日曜 晴。

午下、閑院宮御殿にて御息所御教授申上て帰。

(十一月二十六日、記載ナシ)

十一月二十七日 甲辰 火曜 晴。

午下、余、正子と同行にて、一時廿分飯田町之汽車にて吉祥寺二時四十分着、直に井之頭之紅葉を見る。見頃也。紅葉ハ皆山楓にて古木、池に臨テ幽邃閑雅、詩意哥情也。弁天堂にて休憩、写生す。三時の汽車にてのつもり、乗おくれたり。戎屋にて休憩。五時三十三分の汽車にて帰る。

十一月二十八日 乙巳 水曜

大坂辻八千女え黒縮緬袴羽織を送る。

万里幸子さまより白羽二重一疋。

十一月二十九日 丙午 木曜 雨。

岩倉氏、戸田氏、雨中にて断る。

十一月三十日 丁未 金曜

齋藤藏之介より白七子一反。

(十一月会計、記載ナシ)

(十二月)

十二月一日 戊申 土曜

午下早々、余、桃子と同道にて、高輪毛利邸ニ約束在て参る。五島善子、志賀鉄千代も先在。実に御庭中之紅葉(以下、記述ナシ)

十二月二日 己酉 日曜 晴。

余、桃子と同行にて、朝九時より観世会ニ行、四時帰。不在中来客、川俣貞子。夜、[ゑさし町](#)辺火アリ。

*[ゑさし町](#)(餌差町)

十二月三日 庚戌 月曜 晴。

入塾、岩間菊。入門、駒井。退校、甲藤直子。来客、岩間熊江。大坂辻八千より古墨式丁着。百五十年間之墨也。

受方摘要 岩間きくより一円。

十二月四日 辛亥 火曜 晴。

来客、柴田朝、小河増子 今ハ志賀鱒吉の妻。志賀重昂氏出席。

十二月五日 壬子 水曜 晴。四十度。始て霜深く霜柱たつ。

靖子、谷原横山氏より始て帰る。よほどふとり、智恵も付、よくはひ出てつかまり立も出て、見違ひたる様成人いたし候。

十二月六日 癸丑 木曜 四十度。三時頃、雨降出し、夜すから降つゝく。

午下、戸田氏、岩倉氏ニ教授して帰。来客、陸軍薬剂監石坂氏、食物養生法談話を聴。夜八時去。

*薬剂監(薬剂監)

十二月七日 甲寅 金曜 晴。暖気、五十九度。

午下三時より、靖子、石神井村ニ帰る。来客、石山すま子、岡崎忠子。

(十二月八日、記載ナシ)

十二月九日 丙辰 日曜 晴。

来客、武井義、福岡ニ出立ニ付、暇乞に来る。

十二月十日 丁巳 月曜 朝、霜雪の如し。三十五度。

早起。散歩して帰。

画之三年生ニ号ヲ授ク。

花苑、市島藤野。花泉、田中静子。花章、青木幾恵。花鳳、小西庸子。万花、別府静。笑花、竹内錦。

此日より勅題雪中竹、稽古にかゝる。

十二月十一日 戊午 火曜 晴。朝、霜雪の如し。三十五度。

早起。散歩して帰。来客、大和田、岡崎忠子。

田村氏え紋織御召一反。

十二月十二日 己未 水曜 陰、夜雨。朝、霜雪の如し。

早起。散歩して帰。

十二月十三日 庚申 木曜 晴、朝、霜雪の如し。
早起。散歩して帰。生徒、御勅題書上ル。午下、戸田氏、岩倉氏に教授して帰。
受方摘要 戸田氏、十円。山田梅、四円。

十二月十四日 辛酉 金曜 晴。
画の試筆稽古にかゝる。

十二月十五日 壬戌 土曜 晴。
記事なし。朝、墓参して帰る。
受方摘要 軍事公債利子、七円廿五銭。

十二月十六日 癸亥 日曜 晴。
山県孝子母死去ニ付、本日送葬ニ付、三浦代理ニ遣す。香奠二円。午下、余、桃子と同じく上野勸工場ニ行、求物して帰。
払方摘要 暮の買物、九円也。

十二月十七日 甲子 月曜 晴。
(コノ日、記事ナシ)

十二月十八日 乙丑 火曜 晴。
志賀氏談話会、此日を以て納会とす。夜、岡崎忠子。

十二月十九日 丙寅 水曜 晴。
早起。散歩して帰。清田長秋死去ニ付、弔詞を遣す。

十二月二十日 丁卯 木曜 陰、夜雨。
午下、岩倉氏教授納をなす。閑院宮様え歳暮御祝義申上て帰。来客、佐野隠居。
岩倉氏、七子一反。山口梅より白毛とう大一枚。

受方摘要 岩倉氏、十五円。同、三円。斎藤常、十円。同、三円。
*祝義(祝儀) *白毛とう(白ケツト)

十二月二十一日 戊辰 金曜 晴。
原氏より縹珍帯地、紋織一反、家内一同、廿四反。
受方摘要 小西庸、五円。藤野、五円。別府静、五円。青木幾恵、十円。

十二月二十二日 己巳 土曜 晴。

正午迄の授業畢而、午下より塾生帰省する。来客、角田栄子、志賀鉄千代。
受方摘要 三条家、十円。来栖貞、五円。松平妙、三円。
払方摘要 東海銀行え預ヶ金、百円。

十二月二十三日 庚午 日曜

受方摘要 吉田かた、三円。藪かね、三円。生源寺いさを、三円。樹下定江、三円。平田三枝、三円。大東と代、三円。

十二月二十四日 辛未 月曜

受方摘要 安田暉、五円。九条恵、千足。今城友、千足。閑院宮、三十円。西村政、二円。毛利氏、千足。

十二月二十五日 壬申 火曜 晴。

謡納会ニ付、午下一時始にて、講堂第二教室にて、

熊野 能 シテ大和田氏 ツレ桃子 ワキ愛治郎

はやし 羽衣花 西王母桃子 山姥花

畢而下座敷にて、

田村石山すま子 蟬丸 シテすま子 ワキ桃子 ツレ忠子

俊寛花 三井寺桃子

畢而晚餐を饗す。夜七時皆々帰。来客、安富きく、こま。外来客、中村敬子、中島たけ。午二時過、地大震。

受方摘要 園祥子、三円。徳川氏、五円。田中静、十円。

*はやし(囃子)

十二月二十六日 癸酉 水曜 晴。

奥のすゝ払。大坂美尾野、角野氏え額面小包出。書を寄す、両家え。みの青木氏より守口五樽着。

受方摘要 斎藤梅子、十円。

*みの(美濃)

十二月二十七日 甲戌 木曜 晴。

朝より余の居間掃除する。来客、山崎初喜母、江副米子、静子、玉枝、三治郎。木津願泉寺より奈良漬着。木津美尾野忠兵衛より蕪漬一樽着。

受方摘要 茂木栄子、五円。上杉氏、二円。

十二月二十八日 乙亥 金曜 晴、夜雨。

午下、余、栄子、鶴子を拉して五軒町に歳暮二行。それより九段勸工場及東明館二買物して帰。来客引続、閑院宮家従。

閑院宮様より紋縮緬一反。

受方摘要 五軒町婢僕、九十銭。閑院宮妃殿下より百円寄附。

払方摘要 東海銀行え預ケル、百円。買物、十円。

十二月二十九日 丙子 土曜 晴。

朝散歩して帰。来客、土井早苗。

車の前掛一箇。

十二月三十日 丁丑 日曜 晴。五十五度。

受方摘要 松平鱗子、千疋。同英子、千疋。藤山枝子、三円。

十二月三十一日 戊寅 月曜 晴、月あかし。五十五度。

当年ハ例よりも何事も早く仕舞、歳暮の御祝義もめて度済候。

*祝義(祝儀) *めて度(目出度)

(十二月会計、記載ナシ)

(明治三十三年会計)

会計え取替物

一月 九日 金壹円、車夫え祝義

*祝義(祝儀)

十日 緋金巾、三十九銭、絹や

二月廿七日 今川小路玉枝方え金千疋香奠

三月 吾妻コート裏地緞子、三井

同コート仕立

老尺四寸巾絵絹二丈

足袋十足

二月十二日出 黒染物、京都

四月十五日着 紋羽二重羽織地染入、四円、近万え

色上

黒縮緬羽織、二円

黒縮緬着物、四円

七子羽織地、四円

三月 十日 裾廻し地、薄花メリンス一反、伊勢や
十三日 黄木綿一反、絹や

小林え

紋絹、染模様、ゆのし羽織のかた入
ケンドン、同(染模様)

*ゆのし(湯熨斗)
*ケンドン(絹緞)

小紋おめし表、裏共

廿五日 メリンス帛紗二枚、絹や、金沓円十五銭

三月三十日 裾廻し地、薄花メリンス一反、伊せや

四月 三日 浅黄絹裏地一反、三井

白羽二重、御水一反、済金八円、石山家

黒縮緬袴、仕立七十五銭、三井

カシミヤ袴地、二円三十銭、同

五月十九日 茶繻珍帯、金八円七拾五銭、白木や

廿七日 大島紬一反、済金七円八十銭、石山家

廿七日 白地ゆかた二反、済式円四十銭、よね

六月廿五日 白地ゆかた一反、金沓円三十五銭、石山家

七月 七日 鼠縮緬、色上二枚分、三井

十一日 白地ゆかた一反、絹や

十三日 白地ゆかた二反、九十銭、七十五銭

廿七日 紹袷羽織仕立、三井

八月 一日 紹紋附染物、三井

同 廿九日受取

白紹裾廻し、洗ひはり、同

めりんす長襦半地、絹や

紋七子、紋附染物、三井

同 九月十四日 鷹羅紗机懸、沓円七十五銭、よね

八月 鼠縮緬、単紋付仕立、わし田

九月廿八日 黒羽二重、紋附呉服仕立、同

十月 三日 白羽二重、張、三井

九月 九日 請取 黒縮緬、袴羽織仕立、同

九月 九日 請取 黒紋羽二重、袴羽織仕立、同

十二月 四日 めりんす帛紗、絹屋

同 十二月 四日 黒紋羽二重、袴羽織仕立、同

同 十二月 四日 黒縮緬、袴羽織仕立、同

同 十二月 四日 黒紋羽二重、袴羽織仕立、同

同 十二月 四日 めりんす帛紗、絹屋

十二月

*めりんす(メリンス)

*洗ひはり(洗ひ張)

*めりんす長襦半地(メリンス長襦袴地)

*わし田(鷺田)

十一月	羽織紐一組、八十錢、絹糸や	
十二日	木綿三反、九十錢ツ、米え	
同	瓦斯織一反、一円七十五錢	*板しめ(板締)
同	緋板しめ、めりんす一丈、一円五十錢	*めりんす(メリンス)
十二月十九日	紫のかしみや六尺、三円五十錢	*かしみや(カシミヤ)